

プロジェクトの現場から

熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクト(PRODERiP) 第2回合同調整委員会の開催

三宅 公洋 専門家 (研修/プロジェクト運営管理)

熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクト(PRODERiP)とは

本プロジェクトは、2011年5月末の日本人専門家の到着により開始され、カメルーン国南部の3州(中央州、東部州、南部州)での陸稲栽培普及・振興を目指したプロジェクトです。本プロジェクトはカメルーン国における最初の JICA 技術協力プロジェクトであるとともに、カメルーン国南部での初めての陸稲栽培振興を目指したプロジェクトです。

カメルーン国熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクト (PRODERiP)の、第2回合同調整委員会 (JCC) が2012年6月19日開催されました。

1年前のプロジェクト開始当初、初めての技術協力プロジェクトであることから、執務室の確保や先方カウンターパートの配置等に問題があったが、JICA カメルーン事務所の強力な支援、また、カメルーン側のコーディネーターに優秀な人材を得られたこともあり、プロジェクト活動が展開されるにつれ、先方の JICA 技術協力プロジェクトへの理解が深まり、こうした問題の多くは、プロジェクト開始半年後には概ね解決の目処が付き、プロジェクトの活動も軌道に乗っていきました。

しかしながら、陸稲栽培・普及の面でも困難が無かったわけではありません。プロジェクト開始前に、大きな問題はないと見なされた栽培・普及のための種子の入手について、専門家の到着後、カメルーン国内での優良な種子の入手がほぼ不可能であることが判明しました。

そのため、プロジェクト開始後の2011年7月、急遽、ベナンの Africa Rice Center より複数品種の陸稲・原原種種子を入手し、陸稲栽培普及の開始が可能となる種子の生産体制構築に着手、2012年現在では、4つの圃場を整備し、カメルーン国内で完結した種子生産の青写真が描けるまでに至り、上記で述べたプロジェクト活動の柱の一つ(種子生産)ともなっています。



陸稲の実証栽培に関する説明をする惣慶 嘉専門家

2012年6月19日に開催された JCC には、本プロジェクト実施省庁の農業・農村開発省(MINADER)の関連部局の要人のほか、国立研究所の関係者、カメルーン国 NRDS のフォーカルポイント(商業省、経済・計画・国土整備省等複数省庁の担当者)、農業会議所のトップ、その他多くの関係者が集まり活発な議論が展開されました。



関係者が集まりプロジェクトに関する活発な議論がなされた

議論の多くは、上記、種子生産の発展に係るもの、農業普及関係者の能力強化に係るもの、プロジェクトの活動の拡大(主に地理的な拡大)への希望に係るものの3点に集約されました。

また、今回の JCC の論点の一つであった PDM 指標値についても多くの助言・コメントが得られ、特に上位目標の数値については、ほぼ全ての発言者がより高い値とすべきと主張し、カメルーン側の陸稲栽培振興への期待・希望、またその発展への意志が確認され、大幅な上方修正を加えることとなりました(提案値:7,000 トン/年→最終的な指標値:11,000 トン/年のコメ生産)。

2012年度に関しカウンターパートファンドも確保され、プロジェクト研修への参加希望者も多いなど、カメルーン内での期待が非常に高いプロジェクトであり、プロジェクトメンバーの更なる活躍が期待されます。

☆プロジェクトチームメンバー☆

惣慶 嘉 専門家 (チーフアドバイザー)
三宅 公洋 専門家 (研修/プロジェクト運営管理)
栗原 一寿 専門家 (陸稲栽培技術/普及)

湖水爆発を解明する

地球規模課題対応国際科学技術協力事業「カメルーンにおける火口湖ガス災害防止の総合対策と人材育成」プロジェクト
2012年5月31日にンコルビソンの地質鉱物研究所(IRGM)で行なわれた供与機材引渡し式
吉田 陽一 専門家 (業務調整)

※ 地球規模課題対応国際科学技術協力事業とは、環境・エネルギー、生物資源、防災、感染症などの地球規模の課題の解決を視野に、これら諸課題の解決に繋がる新たな知見の獲得およびその成果の将来的な社会実装（具体的な研究成果の社会還元）を目指し、開発途上国の社会的ニーズを基にわが国の研究機関と開発途上国の研究機関とが協力して国際共同研究を推進することによって、開発途上国の人材育成および研究能力の向上を図ることを目的とするものです。

本プロジェクトでは、2011年4月のプロジェクト開始以来、ニオス湖、マヌーン湖での定期モニタリングの実施、人材育成を目的とした博士課程への長期研究員の選抜をおこない、プロジェクトのカウンターパート機関であるIRGM研究所に対して、調査・研究に必要な機材を年度ごとに計画、カメルーンへ航空便や船便で輸送しています。



湖上の筏で調査活動を行う、カメルーン、アメリカと日本の研究者。気象観測用機材の三脚を筏のうゑに固定する。

プロジェクト一年目を終えるころ、ニオス・マヌーン湖の現場で使用されるボート、船外機（エンジン）、気象観測用機材などが配置され、ンコルビソンにあるIRGM研究所にイオンクロマトグラフ、アイソトープアナライザー、超純水製造装置などが設置されました。これを契機に機材の引渡し式が開催され、科学技術省（MINRESI）大臣、新井特命全権大使（在カメルーン日本国大使館）をはじめ、科学技術振興機構（JST）の代表、中島葉子企画調査員、日本人研究者ら、カメルーン人研究者らを迎えました。



科学技術省大臣に機材の鍵を手交する新井大使

式典には関連省庁から多くが参列し、屋外に設置された四基のテントに納まらないほどの人気となりました。テレビや新聞からの報道陣も多く駆けつけ、スピーチの様様、インタビュー、写真撮影、供与機材の説明について、熱心な取材が行われました。

供与機材引渡し式を終え、多くのテレビ、ラジオ、新聞などの報道により、プロジェクト、日本の開発援助、研究者の貢献等について国民に知れることとなり、機材引渡し式の開催はプロジェクトの運営に良い影響を与えたと思われます。

★プロジェクト開始の経緯★

カメルーンには、標高4,000メートルを超えるカメルーン山をはじめとする多数の火山があります。この火山帯で1984年と1986年に火山の火口にできた湖（火口湖）であるマヌーン湖とニオス湖で、湖底に溜まった大量の二酸化炭素が突然湖面に噴出、ガスが山の斜面に沿ってふもとの村に広がり、3つの村で約1,800人の住民の命が失われました。現在も、湖の周辺での居住は禁止されており、約1万人の人々が先祖伝来の村を離れたままです。

本プロジェクトの研究代表者である日下部教授は、1993年、地下のマグマに由来する二酸化炭素を含んだ温泉水が湖底からわき出ていること、それによって大量の二酸化炭素が湖水に溶けた形で蓄積していること、それが何らかのきっかけで爆発的にガス化し災害を引き起こしたことを突き止めました。この現象は「湖水爆発」と呼ばれ、現在も地下のマグマから途切れることなく二酸化炭素が湖水に供給されているため、ガスを除去するためのパイプを湖に設置するという対策が取られていますが、湖水爆発のメカニズムには不明な点が残されています。本プロジェクトではこのメカニズムを明らかにし、ガス災害防止への総合対策に貢献します。



ニオス湖ではパイプを設置し湖水中の二酸化炭素を除去している。増設されたガス抜きパイプの影響で、湖面に持ち上げられた鉄分が酸化して湖水表面の水が変色した。

ようこそカメルーンへ！ ビャンブニュ！

	<p>氏名：森 龍子 役職：健康管理員 出身地：岐阜県 趣味：ウォーキング 着任日：6月13日</p>	<p>初めまして！新しく赴任しました在外健康管理員です。カメルーン赴任前はベナンにて在外健康管理員をしていました。カメルーンに派遣中の JICA 関係者の皆様の活動・業務を健康面からサポートさせていただきます。健康管理は自己管理が基本ですが、困ったときには早めにご相談ください。夜間・週末を問わず、健康上のご心配・ご不安などありましたらお電話ください。</p>
	<p>氏名：榊 将乃介 役職：事務所員 出身地：愛知県 趣味：釣り、ダイビング 着任日：6月18日</p>	<p>前部署では中南米の農水産案件を担当しており、ラテンの世界から中部アフリカに飛び込んできました。仏語と格闘する日々ですが、事務所員として何でも屋になれるよう頑張ります。</p>
	<p>氏名：桑畑 美津子 役職：企画調査員 出身地：和歌山県 趣味：布集め、ストレッチ 着任日：6月27日</p>	<p>初めての中央アフリカ。これまで赴任していた西アフリカとは全く違った雰囲気圧倒されている毎日です。がんばります！</p>
	<p>氏名：石原 美穂 指導科目：小学校教諭 出身地：岐阜県 趣味：旅行、水泳 任地：クリビ 着任日：6月27日</p>	<p>充実した2年間を過ごすため、一生懸命頑張ります。また、沢山の人の出会いを大切にして活動をしていきたいです。よろしくお祈りします。</p>
	<p>氏名：宇野 遥 指導科目：幼児教育 出身地：青森県 趣味：ショッピング、読書 任地：エボロワ 着任日：6月27日</p>	<p>カメルーンの文化や新しい発見を楽しみながら生活したいと思います。いろいろ教えてください！よろしくお祈りします。</p>
	<p>氏名：坂中 優美 指導科目：小学校教諭 出身地：鹿児島県 趣味：ジョギング、写真、旅行 任地：サンメリマ 着任日：6月27日</p>	<p>アフリカで先生をすることが子どものころからの夢でした。夢のスタート地点に立つことができワクワクしています。よろしくお祈りします。</p>

事務局より：2012年6月は出会いと別れの月でした。JICAME 通信へのお問い合わせは以下までお願いします。

お問い合わせ先：ca_oso_rep@jica.go.jp カメルーン事務所ホームページ：<http://www.jica.go.jp/cameroon/index.html>